

# 福井県自然保護センター(1/2)

自然保護センターは  
「郷土の自然を感じたい、知りたい、そして考えたい」  
そんなあなたを応援します。



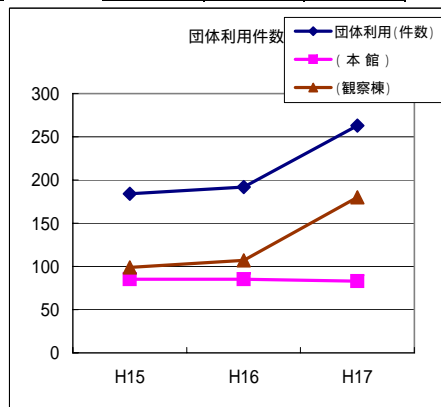
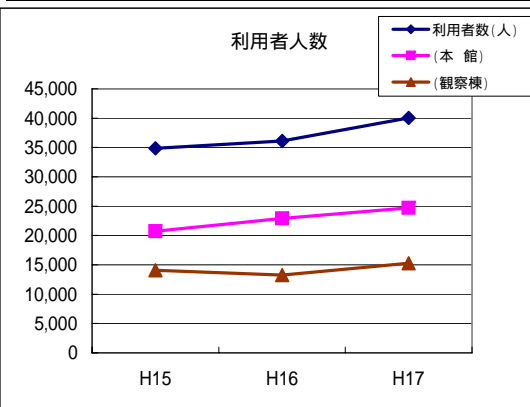
所在地	大野市南六呂師169-11-2		
設置年月日	平成2年7月12日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与することを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	(本館)木造・鉄筋コンクリート混構造3階建、地下1階、地上2階、延べ2,111㎡ (観察棟)鉄筋コンクリート3階建、延べ418㎡ (本館)展示場、レクチャーホール、工作室 (観察棟)プラネタリウム室・定員44名、天体観察室・80cm反射望遠鏡		
職員数	職員7人 非常勤嘱託2人 アルバイト2人 計11人		

## 利用状況等

	H15	H16	H17
利用者数(人)	34,844	36,136	40,023
(本館)	20,746	22,905	24,728
(観察棟)	14,098	13,231	15,295

## 利用者負担(利用料金)等

入館料	大人	無料
	高校・大学生	無料
	小・中学生	無料



利用状況の推移  
平成17年度については、本館において6月25日～8月20日までの間、「間近で見よう ふくい野鳥」剥製・写真展を開催し、また、観察棟においては、夏休み期間中に従来の土曜日に加えて、金曜日にも天体観望会を開催したことから、平成16年度より全体で約3,800人の利用者増となりました。

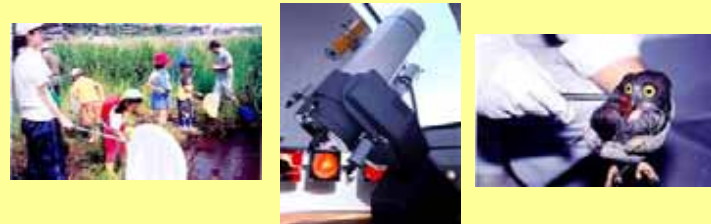
## 自然保護センターで行っている事業

展示事業 自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開



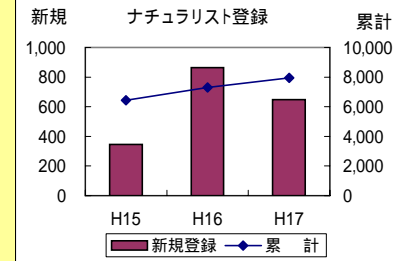
資料収集事業 自然に関する標本や文献、視聴覚資料等の収集保管

指導普及事業 自然を学び、自然と共存しようとする動機付けの場の提供  
(自然観察会、天体観望会、プラネタリウム、傷病鳥獣救護等)



研修養成事業 自然保護に関心を持つ県民を養成  
(ナチュラリスト登録、普及誌の発行等)

調査研究事業 自然環境を把握し、保護の基礎資料とするために各種調査、研究を実施  
(GPSを利用したクマの行動調査、ブナ科樹木の堅果生産量把握に関する研究、渡り鳥保全調査、三方五湖の水草調査等)



## 17年度調査研究

- GPSを利用したクマの行動調査事業(ツキノワグマ広域調査事業関連調査)  
ツキノワグマの生態・行動に関する基礎的知見を得、出没予測を含む保護管理の基礎資料とするため、GPSテレメトリにより、その行動と空間利用を定量的に把握し、行動圏や各種環境因子の嗜好性を解析。
- ブナ科樹木の堅果生産量把握に関する研究(ツキノワグマ広域調査事業関連調査)  
ツキノワグマの生息環境把握の基礎資料とするため、餌となるブナ科樹木の堅果生産量を調査するとともに、堅果生産量の早期予測についても検討。また、長期的・広域的な堅果生産量モニタリング手法を確立。
- 鳥獣害のない里づくり関連事業  
鳥獣害対策の基礎資料とするため、関連する各種情報を分析。
- 三方五湖の水草調査  
ヨシやマコモ、ヒシなどの水草帯(植生帯)の分布範囲を調査。

# 福井県自然保護センター(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度) (単位 千円)

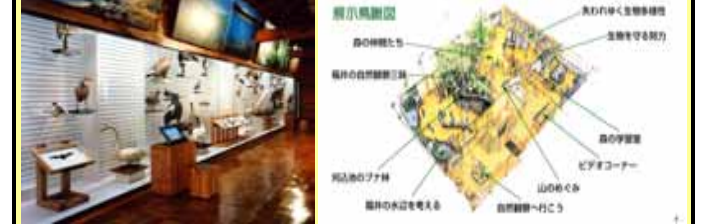
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	71,780	42.2%	97.1%
	退職給与引当金繰入	210	0.1%	-
	計	71,990	42.3%	100.1%
物にかかるコスト	物件費	40,732	23.9%	84.1%
	維持補修費	2,468	1.5%	25.9%
	減価償却費	53,572	31.5%	100.0%
	計	96,772	56.9%	86.8%
その他	公債費(利子)	1,437	0.8%	98.7%
	その他	0	0.0%	-
	計	1,437	0.8%	98.7%
合計		170,199	100.0%	92.0%

バランスシート(平成18年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	690,971	93%	固定負債	252,639	95%
投資等	0	-	流動負債	12,781	1018%
流動資産	0	-	正味資産	425,551	89%
計	690,971	93%	計	690,971	93%

施設の特徴  
展示の目的

地域の自然の素晴らしさ、楽しさを発信し、広く県民の中に、自然に親しみ、自然を大切にする心を育ててきました。  
平成14年度末に館内展示を一新し、世界的な課題となっている生物多様性保全の問題について、重点的に取り上げています。



今後の課題

さらに、利用者増を図るため、引き続きホームページやマスコミなどを利用した情報発信を行うとともに、県民ニーズに沿った企画内容の拡大・充実に取り組むことが課題です。

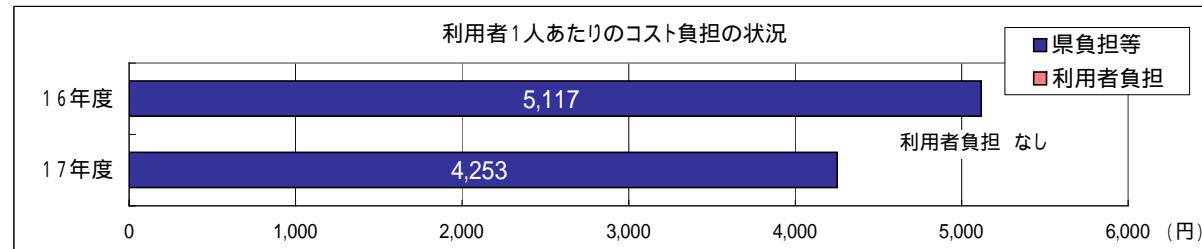
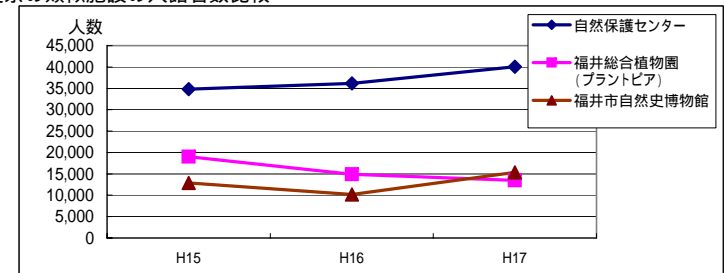
(単位 千円)

収入				
収入	利用料等収入	9	0.0%	100.0%
	その他収入	429	0.3%	100.5%
	一般財源	169,761	99.7%	92.0%

(前年比)

利用料等収入計	9,000 円	100.0%
利用者1人あたり平均利用料	0 円	-
利用者1人あたりコスト	4,253 円	83.1%

自然史系の類似施設の入館者数比較



バランスシート、行政コスト計算書の特徴

- ・物にかかるコストが全体の57%を占めていますが、前年比は87%となっています。これは、平成17年度においては、施設の大規模修繕がなかったことによります。
- ・利用者1人あたりのコストについては、施設の入館者数が約10%伸びていることから、少なくなっています。



今後の事業方針

自然観察会、天体観望会、リーダー養成講習会、標本展示、資料収集など、各種事業を県民ニーズを踏まえながら、着実に実施するとともに、クマ、イノシシ、シカ等への対策など、自然との共生に向けた今日的課題を解決するための調査研究を推進します。

取組み内容

ツキノワグマ広域調査事業

ツキノワグマによる人身被害を防止し、人と共存を図るために、クマの行動や生息状況、生息環境に関する情報を収集し、解析することにより、クマの出没予測を行うとともに、専門の知識を有する職員を育成し、的確な対策を講じます。